

# 厚労省など政府各省庁に説明を受ける

日本共産党別府市議団（平野文活・えんど久子）は堤米三大分県議・県下の共産党市議らと共に上京し、10月19日・20日、幅広い問題で政府各省庁に説明を求めました。これは毎年行なっているものです。

## 医療費助成を国の制度に

医療費助成制度を国の制度とする考えはなにか、医療費助成制度を窓口無料化をすると、国民健康保険への国庫支出金が減額されるがこのペナルティをなくす考えはないか、などについて厚生労働省の見解を聞きました。

厚労省は、「医療費を国として助成することは、厳しい財政を考えると課題が大きい」「助成している市町村にだけ出すのは不公平」「減額は制裁措置ではない」「医療費の増大を招くため減額措置の撤廃は考えていない」

えんど市議らは、「国の制度がないから自治体ごとで不公平になっっている。ペナルティがあっても全国の自治体で窓口無料化しているのは、それだけ要求が強いからだ」と訴えました。



国会議事堂をバックに平野・えんど

## 介護保険の国庫負担増を

来年4月介護保険料の値上げが予想されているなか、介護保険の国庫負担引き上げについて、厚労省は「他の制度との均衡や厳しい財政状況を考えると難しい。介護保険制度は社会保険制度であり、保険料が中心。将来にわたり持続可能な制度とするため財源の確保に国民的議論が必要」と説明しました。

えんど市議らは「国の負担を増やすしかない。今でも高いのに下げしてほしいというのが多くの声だ」と、実状を訴えました。



厚労省の担当者（手前）と話し合う平野・えんど別府市議と中津市議ら。赤嶺政賢衆議院議員も同席しました。防災問題では、原子力安全委員会・保安員の説明も受けました。

国会内の衆議院第一会館にて。

2011. 10. 19.

えんど久子のホームページ「はっぴーえんどどっとねっと」をぜひご覧下さい。「えんど久子」で検索すれば見られます。

日本共産党 別府市議団  
**げんきニュース**

発行責任者 平野文活  
別府市石垣西8-2-31  
TEL0977-22-6576

**No.487**  
2011. 11. 9.

# 広域議会でえんど久子議員が質問

藤ヶ谷  
清掃センター

## ダイオキシン測定に疑問



藤ヶ谷  
清掃センター

11月7日、別杵速見地域広域圏議会が開かれました。今年度は、佐藤隆信日出町議・えんど久子別府市議・加来たかし杵築市議が広域議員です。日本共産党からは3人の議員がそれぞれ質問。えんど久子議員は、藤ヶ谷清掃センターのダイオキシンなどの測定について質問しました。

### いつもの運転と同じか

通常と違う報告のためのデータ(チャンピオンデータ)が全国的に問題になっています。住民の健康にとって重要な問題であり、もし、このようなことがあれば、法律違反です。えんど議員は、「33年経過した古い施設なのに、ダイオキシンの数値がこの2・3年よくなっているのはなぜか」と質問。「添加剤の消石灰の形状が変わった」と答弁がありました。しかし、えんど議員が手に入れた運転日報によると、消石灰供給機はOFFになっていま

す。

### 温度を把握していないのは怠慢

また、えんど議員は「ダイオキシンの発生に際しては、ポイントとなる集じん機の入り口ガス温度は、運転日報によると240度で一定しているが、実際には変動するはず。240度は設定温度だが、実際の温度を

### 測定時ゴミ量を抑えて燃えやすく

さらに、えんど議員は「ゴミの投入量が測定の間帯は平均4.39トンと少なく、測定が終わってからは5.26トンと増えて

### チェック体制の強化を

えんど久子議員は、事業系ゴミの分別をすすめること、国基準以上に抜き打ちでの測定や立ち入り検査を行なうこと、チェック体制・監視体制を強化することの3点を求め、住民の信頼を

高めるべきと主張しました。浜田博管理者は、「さらに調査が必要だ。チェックや指導を強化し十分連携を図っていききたい」と答弁しました。